

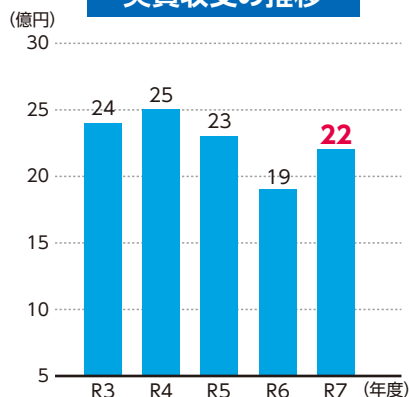


▼一般会計決算の状況

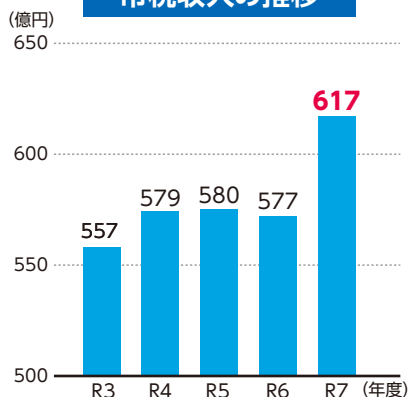
区 分	令和6年度	令和7年度
歳入	1670億4000万円	1721億100万円
歳出	1645億9300万円	1691億2500万円
歳入歳出差引 A	24億4700万円	29億7600万円
翌年度繰越額 B	5億800万円	7億3800万円
実質収支 A - B	19億3900万円	22億3800万円
単年度収支	▲3億7300万円	2億9900万円

※単年度収支は前年度実質収支との差額となります。

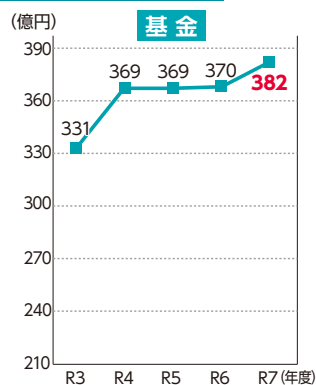
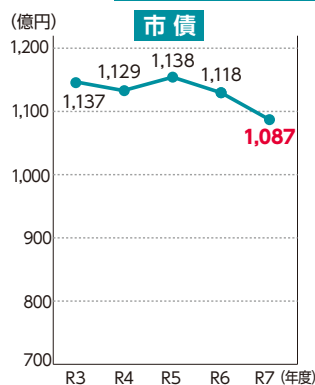
実質収支の推移



市税収入の推移



普通会計の市債・基金現在高の推移

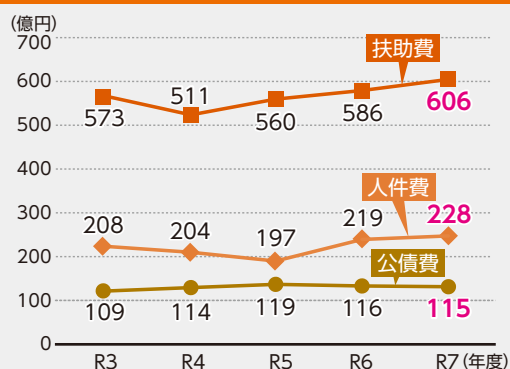


市債とは、多額の経費が必要な建設事業の単年度の負担を軽減し、計画的な財政運営を行うために国や銀行などから借りるお金のことです。このほか、地方交付税の不足分を補うための臨時財政対策債という借入金があります。

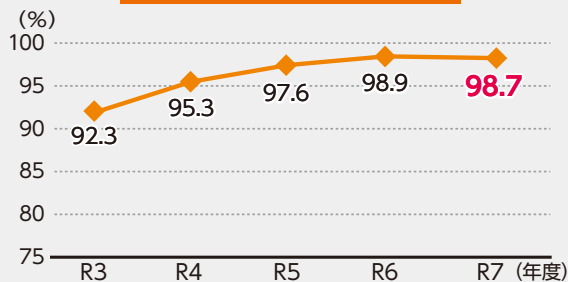
令和7年度末の市債現在高は、臨時財政対策債の借入を行わなかったことなどにより、前年度に比べて31億円の減少となりました。また、基金現在高は12億円の増加となりました。

市債残高は31億円の減少

普通会計の人件費・扶助費・公債費の推移



経常収支比率の推移



財政の弾力性を示す財政指標。数値が低くなるほど自由に使えるお金が増えることを示しています。

※決算の詳細は広報ひらかた10月号でお知らせします。

6月
定例会
議会

意見書、人事案件など可決

令和8年6月定例会月議会は6月26日に終了しました（6月12日の審議結果は7月号に掲載）。19日の本会議では、公平委員会委員に道越清樹氏を選任することに同意がありました。このほか、26日には「全てのケアラーに対する包括的な支援と法的枠組みの整備を求める意見書」など4件の意見書が可決されました。人事案件では、固定資産評価審査委員会委員に玉泉（通称・滝口）広子氏を選任す

ることに同意があったほか、人権擁護委員候補者の推薦について森澤可幸氏が適任とされました。また、農業委員会委員に14人を任命することに同意がありました（関連43ページ参照）。

※会議情報などは、市議会公式インスタグラム（下記コード）で随時発信中。



⑤ 議会事務局 議事広報課 ☎ 841・1528、FAX 841・0240

市民委員募集

生涯学習推進審議会

生涯学習施策の総合的な推進に関することなどを調査・審議します。▼対象など 国、地方公共団

体の議員、一般職の公務員、市その他の審議会などの委員でない市内在住・在職・在学の20歳以上で、生涯学習活動や自治会などにおいて、地域活動歴がある人を2人。

任期は委嘱日から2年間。審議会は原則平日に年1回程度開催で、報酬は日額9500円。▼申込

8月3日～21日に市役所別館3階

の文化生涯学習課などにある申込書（募集要項とともに市ホームページから取り出し可）と「生涯学習を推進するために、私が必要だと考えること」をテーマとした小論文（800字程度）を同課へ。郵送（〒573-8666 市文化生涯学習課）・メール可。8月21日午後5時必着。詳細は募集要項参照。9月中旬に面接を予定。

⑤ 文化生涯学習課 ☎ 841・1409、FAX 841・1278、
bunshin@city.hirakata.osaka.jp

市政にあなただのご意見を

（仮称）市住宅宿泊事業の適正な運営の確保に関する条例（骨子）

住宅宿泊事業（民泊）に係る諸問題の発生防止と同事業の適正な運営確保を目的に、営業規制および事業者が講ずべき措置を定める条例骨子。意見は市ホームページの専用フォームまたは案の設置場所にある意見回収箱へ。郵送（〒573-1197 禁野本町2-13-13 保健衛生課）・ファクス・メール

（必要事項を明記）可。▼実施期間 8月6日（木）～26日（水）。▼案設置場所 市保健所（禁野本町2-2階保健衛生課、市役所本館・別館受付、各支所、各生涯学習市民センターなど。

⑤ 保健衛生課 ☎ 807・7624、FAX 845・0685、
hoisei@city.hirakata.osaka.jp

伏見市長の情熱日記

新校舎で子どもの未来を育む



禁野小学校の新校舎がついに完成し、2学期から子どもたちの新しい学校生活が始まります（2～5ページ参照）。私も視察し、廊下と教室に仕切りのない開放的な学習環境や、多様な交流ができるオープンスペースなど、これまでにない学校の造りに、子どもたちがクラスや学年の枠を超えて学び、成長する姿が目に見えました。

また、学びの場であるだけでなく、災害時の防災拠点としての役割に加え、コミュニティルーム等を設け、地域の交流・活動拠点としての機能も兼ね備えています。学校と地域をつなぐ場として、「地

域とともにある学校」という設計段階からの理念が形になっていると実感しました。学校名や校歌には、児童や教員、地域の皆様をはじめ、公募を通じて寄せられた多くの方の想いが込められています。

このように、新たな取り組みと想いが詰まった新校舎ですが、統合前の高陵小学校と中宮北小学校で使用されていた校歌パネルや卒業制作を展示するなど、両校の歴史と伝統を大切に受け継いでいます。

この新しい学び舎が、子どもたちの成長と学びを支え、地域とのつながりを育む場として、多くの方に親しまれ、愛されることを願っています。